

# 使い手と共につくる サンボン石けん Story〈V〉

人は、みんな、この社会の中で役割がある。

ショートステイみっきいのスタッフ達は、仕事を楽しんでいる。利用定員6名なのに、夜勤スタッフが3名や4名の日もある。なのに利用者さん達に癒やされてストレスがたまらないという。利用者6名ならば夜勤スタッフは1名が国の規定で、給付金は足りない。

そこで重度といわれる障害を持つ人が納税者になる事を思いついた。例えば、娘は言葉も話せないが共に過ごしているだけで、周りの人達の固定観念を壊し、意識を変えてきた。私もその一人。『価値は相手の変化量』という言葉に出会って感激した。出来ないことも多い娘だからといって「出来ることを増やす」のではなく、今ある彼女

ることの方を優先する。とても目立つ娘の個性でサンボン石けんのPRができる。娘達は、誰かを癒す力まであるようだ。そんな力を、なぜ社会は利用しようとしなののか？

障害を持つ人は、『何も出来ない人』ではなく、社会参加する機会を奪われている人達なんだと思う。効率を優先しながらも、仕事で疲れ切っている人がいるのは、なぜなんだろう？互いに支え合いが当たり前前の社会にしたい！はみ出す人いない社会にしたい！コミュニケーションが難しい障害のある人の心に思いを巡らせていたい。「みっきい」の母体は、『一般社団法人エフぶんのいち』『NPO法人たゆらぎ』。その名の由来は癒やしの揺らぎ。ここでこれからも皆が輝きますように。